

キーワード

言語の相対性 言語政策の国際比較 社会言語学 視覚障害者対応の英語教育技術
「情報補償コンテンツ」型自主学习支援システムとその教育測定評価

研究概要

以下の2つのテーマに取り組んでいます。

1. 言語政策の国際比較による教育機会均等に関する研究

これまでの研究では、言語相対性原理を提唱した人類言語学者サピア、ウォーフなどの思想の系譜を辿り、新たな言語論としてまとめ、その知見を言語意識教育という形で応用してきました。

彼らが希求した言語の相対性とは、すべての言語とそれを担う人間の文化を、物質文化・国力等とは切り離された等しくしく価値あるものとして、他者への想像力の手段として位置づけようとするものでした。その思想的価値は、グローバリゼーションの重要性がいわれる現代においてこそ大きいものと言えるでしょう。

グローバリゼーションを語る際に避けられない、言語の多様性、危機言語を含む少数言語話者の言語権などの問題は、言語の問題を超え、多様な価値が共存できる社会の実現をめざすための意識といえます。現在は、この見地に立ち、言語政策の国際比較を通じて、すべての言語話者の等しい権利が担保できるあり方について研究しています。

2. 視覚障害対応の英語教育技術研究と教育測定評価

これまでの研究で、視覚障害者の英語学習で用いられるメディア変換教材、音声やPC画面拡大等の情報補償（ICT環境）等、いわゆる「物理的な情報補償」のみでは、視覚障害対応としては不十分であることがわかりました。この困難を解決するため、視覚障害対応自主学习支援教材を、教材の内容構成自体の工夫もくわえた「情報補償型コンテンツ」とし、「物理的情報補償」の上に総合的な自主学习支援システムを開発しました。中程度/重度視覚障害者双方の障害特性に対応した工夫をくわえています。このシステムの有効性を実証するため、多様な視覚障害を持つ学習者からの多観点からの教育測定評価を続け、さらに実効性あるシステムを構築していきます。

また、この研究は、方法論が確立されていないことが多い視覚障害者への言語教育技術への示唆となり、十分な国際貢献が想定できます。各国において応用され、教育分野において、SDGsにいう「取り残された人」を生まない世界を構築できる可能性をもちます。

応用例・用途

1'. 国内貢献：十分に言語権が担保されていない話者（アイヌ語話者・感覚障害者・言語障害者等）の権利回復に資する可能性があります。

国際貢献：十分に言語権が担保されていない話者の権利回復に資する可能性があります。

2'. 国内貢献：本システムの開発は日本初の試みであり、視覚障害者の自立的な英語学習を確立できる可能性が拓かれます。

国際貢献：国内における本システムの有効性を実証しつつ、視覚障害による情報弱者を生まないための国際的な教育機会均等に資する可能性があります。

